

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)	◎	観光名所（職員）	来客数の動き	・来場者数の増加に伴い、売店の売上も増加している。
	○	一般小売店 〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前は大雪の影響により出歩くのが大変だったため、来客数は少なかった。そのときと比べたら来客数は多くなっている。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・販売量は前年比では増加している。
	○	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・イベントなどを開催すると来客数が増加する。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は3か月前比108%、前年比118%である。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新年度に入り人の動きが活発化しており、来客数も増加傾向にある。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温上昇に伴い、来客数が増加している。
	○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・税金の支払などで来店するタイミングが増え、それに伴い売上が若干増加している。
	○	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・夏物が入荷するなか、気温の上昇に伴い、購買意欲が高まっている。一方、生活費全般の値上がりの影響か、来店頻度が低下している客もみられる。
	○	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・新たな省エネ基準の2027年からの導入が浸透してきた影響もあり、気温がそれほど高くないにもかかわらず旧モデルのエアコンを購入する客が増えている。旧モデルのため単価は高くないが、販売台数が前年を上回る実績となっており、全体の売上を支える柱となっている。景気はやや良くなっている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・会社関係の歓送迎会があったため2～3か月前より良い。物価高のため利益は少ないが、来客数は多くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・中国の春節が暦の関係で2月中旬以降にずれただため、1月の集客はそこまで伸びなかった。一方、4月は桜の開花時期が例年より約10日早かったため、日本人客の予約を中心に利用時期の前倒しの動きがみられた。その結果、ゴールデンウィーク期間を前にして良くなっている。
	○	通信会社（経営者）	お客様の様子	・キャンペーンの効果もあり、放送サービス、通信サービスの新規加入者数が増加している。特に工事不要のインターネットサービスが順調に伸びている。さらに、集合住宅への一括導入が増加しているが、これは新規入居者向けにWi-Fi環境が最優先で求められており、アパートオーナーが入居シーズンに間に合わせて契約しているためである。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数は3か月前まで前年割れしていたが、4月は新規客、常連客共に前年比100%に回復している。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢の先行きに不透明感があることから、地方においても物価上昇が続くとみられ、景気は小康状態にある。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・商品が値上がりしているにもかかわらず、売上は前年比100%である。実質的に売上は減少しているといえる。
□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・来客数の減少に伴い、販売量が減少している。	
□	一般小売店〔茶〕（経営者）	お客様の様子	・中東情勢とそれによる値上げや品不足に対して、客からは不安の声が上がっている。	
□	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・ガソリン価格は落ち着きを見せているものの、消費マインドは依然低いままである。特に飲食費に対する節約志向は強く、外食や宴会を控える傾向が顕著である。中東情勢などの影響による更なる物価上昇への懸念も根強い。	

<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・来客数減少、客単価上昇という構図に変化はない。施策により来客数は増加するが、撤退ブランドの影響と化粧品を含む雑貨系商品の伸び悩みが課題である。
<input type="checkbox"/>	百貨店（経営者）	販売量の動き	・売場全体での販売量は減少しているが、イベントによる集客がプラスに働き、全体売上の減少分を補っている。前年踏襲の取組はほぼ減少傾向であり、客が常に新鮮さを求める傾向は年々強まっている。
<input type="checkbox"/>	百貨店（従業員）	お客様の様子	・入店客数は微増しているものの、食品を中心とした販売価格の改定なども重なり、客の購買行動は必要最低限にとどまる厳しい状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経営者）	単価の動き	・値上げ品の増加が続くなか、価格訴求や低単価商品の拡売に注力した結果、平均1品単価は前年をやや上回る程度に抑えられ、営業収入は前年を上回っている。一方で、買上点数及び来客数は前年水準の維持が難しく、収益面では厳しい環境にある。消費の低迷は続いており、一段と厳しさが増している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・米の値上げにより商品単価が上がっていることから、総菜の売行きが悪い。肉は冷凍調理品が売れている。日持ちがするうえ扱いやすいためとみている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	お客様の様子	・特売品の価格について、競合店と比較して更に安くならないかといった問合せがあるほか、夕方の値引きのタイミングをうかがいながら少しでも安い商品を買回る客が増えている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、販売量、単価共に横ばいが続いている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価は微増しているが、購入点数は微減となっている。購入金額を意識しながら調整する動きがみられる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上と粗利益は前年比微増だが、人件費などの経費も若干増えているため、トータルでは変わらない状況である。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	それ以外	・除雪代の支払が終わっていない上に、雪が解けても客の戻りが鈍い。物価高の影響により買い控えも発生している。経費の増加が続くなか、経営は厳しさが増している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・前月同様、新入社員の制服や作業服等の受注は多い。しかし、店頭販売では相変わらず来店客が少ない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数の減少を客単価の上昇でカバーしている。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客はお買い得商品を中心に購入している。売上は確保できても、利益の確保は難しい状況である。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・来客数が前年を割っている。また、スーツの買い控えにより、客単価も大幅に低下している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・売上、来客数共に前年比90%である。物価高に加えガソリン価格が高騰しており、節約志向による買い控えが生じている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出ているにもかかわらず、個人客からの受注が増えない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の配車は依然多くないが、3月末で自動車税環境性能割が廃止されたことを受け、登録を先送りしていた分の売上が増加している。中古車の需要は引き続きあるが、新車の配車が進まないため下取り車が増えず、中古車の在庫は不足している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・繁忙期は過ぎたものの、来客数に変化はない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	販売量の動き	・年度初めの売上は繁忙期で伸びるものの、年を追うごとに減少している。また、十分な利益を確保できないケースも多く、売上が増えるほど支払負担が増す状況にある。その結果、利益が残らないという悪循環に陥っている。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は3か月前と変わらず、前年比97～98%で推移している。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・主流であった東南アジア圏からのインバウンドが季節要因により減少している。

□	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・インバウンド需要が富士山周辺に流れており、動きが余り良くない。
□	通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に変化はみられない。
□	通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・客の様子に変化はない。
□	通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・販売数量、見込み案件等が例年並みにある。
□	観光名所(職 員)	来客数の動き	・来客数は予約客、振り客共に微増の状態が1年近く続いている。落ち込む様子はみられず、来月の予約状況も同様の傾向にある。
□	遊園地(経営 者)	来客数の動き	・34年ぶりの入園料値上げや天候不順もあったが、新機種導入効果もあり、来客数は前年を上回っている。
□	競艇場(職員)	単価の動き	・来客数も客単価もほぼ変わらない。常連客は毎日来るものの、売上は上がらない。
□	美容室(経営 者)	単価の動き	・リラクゼーションメニューを利用する客が減少している。中東情勢への不安感から消費を控える動きがみられる。
□	その他サービス [自動車整備 業](経営者)	単価の動き	・インフレの進行により、販売価格も上昇している。
□	設計事務所(経 営者)	販売量の動き	・引き合い自体は堅調に推移しているが、客が求める内容を実行するには予算超過となり進展しないケースが増えている。その要因は、建設費の高騰と資材不足などに伴う工事期間の長期化にある。
□	その他住宅[リ フォーム](従 業員)	販売量の動き	・コンロ、給湯器、エアコンの交換工事は増えたが、大型のリフォーム工事は減っている。
▲	商店街(代表 者)	お客様の様子	・物価上昇が続いている。
▲	一般小売店[医 薬品](経営 者)	単価の動き	・前年秋以降、売上の悪化が続いている。過去最低を更新した前月からはやや持ち直しているものの、3か月前と比べると依然として低い水準にある。一方で、物価高騰を見越したまとめ買いの動きもみられる。
▲	百貨店(経営 者)	販売量の動き	・来客数は前年を大きく上回っているものの、買上率や客単価など販売面では苦戦している。
▲	スーパー(経営 者)	それ以外	・中東情勢の影響が続いている。
▲	スーパー(店 長)	単価の動き	・毎月の値上げや燃料費の高騰により、消費を控える動きがみられる。
▲	スーパー(店 長)	単価の動き	・1品単価は上昇しているが客単価は低下しており、物価高による買い控えの動きがみられる。
▲	スーパー(店舗 運営)	販売量の動き	・相次ぐ値上げやガソリン価格の高騰、先行き不透明な地政学リスクの影響を受け、全体的に買い控えの動きがみられ、買上点数が減少している。
▲	スーパー(業務 担当)	販売量の動き	・販売量、買上点数の鈍化が顕著に表れている。
▲	スーパー(販促 担当)	単価の動き	・販売点数は前年と比べ減少している。仕入原価の上昇に伴い、価格転嫁を行っており、1品当たりの販売単価は上がっている。
▲	コンビニ(経営 者)	単価の動き	・商品の値上がりが続くなか、当地では賃金が上がっている人が少なく、消費を抑えている人が多いため、売上は上がらない。
▲	コンビニ(経営 者)	来客数の動き	・来客数は微減が続いており、販売量は4か月連続で横ばいの状況にある。例年であれば雪解けとともに来客数や販売量は上向くが、商品価格の上昇の影響か、経営環境は厳しい。
▲	コンビニ(エリ ア担当)	単価の動き	・来客数は季節トレンドに沿って推移しているものの、単価の伸びは鈍化している。
▲	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・今月は来客数が大幅に減少している。原油価格高騰などが影響しているのか、カジュアル品など比較的安価な商品を購入する客が大幅に減り、ついで買いをする客も2割ほど減少している。スーツやズボンを目的買いする客は減っていない。

▲	家電量販店（従業員）	来客数の動き	・前月に続きエアコンの販売が好調で、前年比120%の伸びとなっている。単価も高く、テレビの不調をカバーしている。全体の売上は前年比約105%だが、客が買物に対してより慎重になっている様子が見える。
▲	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・ガソリン価格が高騰している。また、電気自動車を発売するが、新車価格が上がっていることに加え、電気料金も上がっているため、支払総額と購入後の維持費がネックになり買い控えが出ている。
▲	乗用車販売店（店長）	お客様の様子	・物価高やガソリン価格上昇の懸念から、特にガソリン車の引き合いが目に見えて減っている。反面、中古車の需要は上昇傾向にあるが、全体の収益を支えるほどの盛り上がりはない。総じて収益的に苦しい状態である。
▲	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	販売量の動き	・資材価格や物流費の上昇により、マンションや戸建て住宅の価格が高騰している。その影響によりインテリアに掛ける予算はかなり低くなっている。
▲	その他専門店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・米価の高騰から米離れが加速し、4月からの値上げもあり動きは鈍い。また、中東情勢の影響により、重油を原料とする燃料や資材、消耗品についても先行きが見通せない状況にある。生産から流通、小売、消費者に至るまで、民間だけでは対応が難しい不安要素があり、身動きが取れない状況にある。
▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・中東情勢の影響に伴い需給のバランスが崩れ、燃料油や潤滑油等に欠品が多く発生していることから、販売量が減少している。
▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・売上は前年比98%、来客数は同92%である。改装のため一部飲食フロアが今月からクローズしている影響もあり、来客数は前年比では5%程度減少している。また、1品単価の上昇により、客単価は5%増加している。生鮮食品もレジ通過客数は前年比未達である。これまで堅調だった生活雑貨類も、吟味して1点購入する光景がみられるなど財布のひもは固く、消費が好調とは言い難い。
▲	高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・ここ数か月、予約数の減少が続いており、月ごとに比較しても明確な減少傾向がみられる。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・2～3か月前は、鉄道会社の特別企画乗車券の販売やせり鍋提供といった要因もあり、関東からの来店客が多く、景気が非常に良かった。今月の景気も悪くはないが、それと比べると少し落ち込んでいる。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中東情勢の影響か、客足は良くない。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・長引く物価高のほか、中東情勢や地震、熊出没の影響により、予約数が少なくなっている。
▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・物価高や中東情勢の影響により、来客数が減少している。
▲	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が前年同月比89%に減少している。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・中東情勢や物価高の影響により、一部では旅行を見合わせる動きが出てきている。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・熊の出没や地震、山林火災の影響により、観光客数や宿泊者数が減少している。
▲	通信会社（営業担当）	それ以外	・物価が上がり続けている。スーパーで買物をしていると割引の日だけ人が多い。
▲	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・来客数は目標値に対し、3か月前は96.8%だったが、今月は96.7%と下向いている。
▲	ゴルフ場（支配人）	それ以外	・原油価格の先行きが不透明となり、消費行動に影響が現れている。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・物価高が影響し、美容に掛かる費用を儉約していると考えられる。
▲	その他サービス〔寮管理〕（管理人）	単価の動き	・中東情勢の先行きが不透明ななか、消費者の節約志向が強まり、消費は減少している。このため、景気はやや停滞している。

	×	一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・商品に動きがない。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・中東情勢の長期化により物価が上昇しており、客の買い控えがみられる。物価高騰に対して賃金の伸びが追いついていない。
	×	自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・油脂関係類の入荷が不安定となり、単価も上昇している。業界全体でみても、オイル交換から板金塗装まで幅広く影響を受けている。
	×	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・受注生産をしている。製作するものは数か月前に決まっており、今月の受注量は少ないことから、販売量が減少している。
	×	その他専門店〔靴〕（経営者）	販売量の動き	・中東情勢の影響による先行きの不透明感から、消費者は必要最低限の支出を心掛けている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当店は記念日など祝い事による利用が多い。しかし、今年は外食離れや支出を控える行動がみられ、入学祝いなどの利用がかなり減少している。非常に厳しい状況が続いている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・例年であれば、新年度になり進級進学の祝い事や仕事関連の歓送迎会等で動きが活発になる月だが、客層が異なる和食部門、居酒屋部門共に来客数が落ち込んでいる。
	×	観光名所（職員）	来客数の動き	・花見で来客数が伸びる時期にもかかわらず、今年は花見関連の来客数が余り伸びていない。
	×	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・中東情勢により、物が高い若しくは入荷できないため、多くの現場に影響を及ぼしている。
企業 動向 関連 (東北)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	農林水産業（従業者）	それ以外	・果物は収穫前でまだ販売を開始していない。
	□	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・飲食店は好調に推移しているものの、土産品の購入には結び付いていない。首都圏に出店している店舗では平日の利用客も多くにぎわっているが、地元店舗では平日の利用客が少ない。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子	・美術展や観光振興キャンペーンなど自治体の周年事業イベントがめじろ押しである。しかし、活況なのは一部の業種に限られる。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・引き続き受注の動きは鈍く、様子見の期間が長引いている。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・月初めは良い状況でスタートしたものの、当月の実績は計画値に届いていない。一部事業で上向きの動きはあるものの、全体では依然として良い状況とはいえない。
	□	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・受注は堅調である。しかし、資材価格の高騰や人手不足の影響もあり、案件を対応するのに苦慮している。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・以前から見積り対応を行っていた小規模案件について、一定の受注があった。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・大型物件の受注がなく、受注額は3か月前と変わらない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注実績、受注予定のいずれを見ても、景気が良い状況は変わらない。
	□	通信業（営業担当）	取引先の様子	・客からの値下げ要請が続いており、契約の見直しを迫られている。
	□	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・現時点ではインフラ料金の影響は受けていない。
	□	金融業（広報担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響により、原油由来製品の価格高騰に加え、入荷が滞るケースも散見されている。その影響により、運送業、温泉施設、クリーニング業、建築業など経営に悪影響が及ぶ取引先は増加しており、対象となる業種も拡大傾向にある。一方で、足元ではインバウンド需要が好調で、サービス業、宿泊業、飲食業の業績は良くなっている。

	□	広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・期首は例年控えめの広告費で始まる業界だが、今年は経済の先行きに不透明感が強く、様子見をする企業も多いため、全体的に前年比ややマイナスでのスタートとなっている。3か月前と比べても変わらず、広告出稿量は微減で推移している。
	□	公認会計士	取引先の様子	・顧客の月次、決算状況から判断している。小売業、サービス業はある程度業績の良い会社が多いが、製造業、建設業関係が悪い。特に建設業関係は春に着工予定だった工事が秋以降に延期されるケースもあり、売上の確保が難しい状況にある。全体としての景気はやや悪いと判断している。
	□	その他非製造業 〔飲食品卸売業〕（経営者）	取引先の様子	・飲食店の客の入込は週末中心で、平日は閑散としている。
	▲	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月前半の春休み期間中は土産品の動きが好調だったが、中旬以降は動きが鈍くなっている。
	▲	食料品製造業（営業担当）	それ以外	・受注量は前年並みを維持しているが、原材料価格の改定が毎月あり、利益が大きく圧迫されている。
	▲	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先のうち、特に建設業関係の客からは良い話を聞かない。
	▲	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響により、発注が慎重になっている。
	▲	不動産業（従業員）	それ以外	・当地の不動産市況は下向き基調にある。実勢相場は、駅近物件は横ばい、郊外物件は小幅ながら下落している。住宅ローン金利の上昇もあり、取引が動いている物件は限定的である。
	▲	広告代理店（経営者）	取引先の様子	・メディア各社の出稿量は前年比では減少しているとの情報がある。中東情勢等の不安定要因もあり、客先が投資に慎重になっている様子がうかがえる。
	▲	経営コンサルタント	それ以外	・ガソリンや食料品など生活必需品の値上げが著しく、販売する側、購入する側双方が困惑している。
	▲	その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・原油価格の上昇に伴い物価が上がっている。小売店では客が買上点数を抑える傾向がみられ、客単価も伸びていない。
	▲	その他企業〔協同組合〕（職員）	それ以外	・原油価格の高騰に加え、石油関連の原料や資材が入手困難となっており、発注に伝えられる見通しが立たない。製造業全体が同様の状況である。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	受注量や販売量の動き	・官需、民需共に発注工事が低調で需要が落ち込んでおり、厳しい状況である。
	×	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・主力事業のパソコン市場が前年比約3割の減少となっている。4月から受注量も減少している。
	×	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・業種として、営業費用に占める燃料費の割合が大きい。燃料価格の高騰で厳しさが増すなか、サーチャージ制などによる価格転嫁が進まず、収益を大きく圧迫し続けている。
雇用 関連 (東北)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・中東情勢など将来への不安要素は若干あるものの、今月についてはその影響はみられない。建設業、卸売業、飲食業、アミューズメント分野では、引き続き求人を出している。
	□	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・企業の採用意欲は低下している状況にある。特にメンバークラスの経験が浅い層を対象とした求人において、複数名枠での募集が減少している。そのため、全体の採用者数も伸び悩んでいる。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・東北の求人数は前年比120%と増加しているが、登録求職者数は同86%と減少している。景気が良くなっていないという点は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・直近3か月の新規求人数は、前年同月比で増減はあるが、大きな変化はない。
	□	学校〔専門学校〕	求人数の動き	・専門学校への求人数は、前年比では大きな変化はない。

□	その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・物価高による原材料費や燃料費の高騰により、経営に影響があるとする企業が多い。
▲	アウトソーシング企業（経営者）	それ以外	・他業種からの参入があり、競争が激しくなっている。
▲	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・原材料価格の高騰に歯止めがかからず、採用活動において広告料などの費用を掛けられない企業が非常に多くなっている。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・広告収入が2割減少している。
▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求職者数は増加し、有効求人数は減少が続いているため、有効求人倍率が低下してきている。
▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月比で有効求職者数は増加傾向にあり、有効求人数は減少している。有効求人倍率は低下傾向にある。
×	*	*	*